



スキー教室で気力養成



学校を出発



歩きづらいなあ

余裕のポーズ?

雪に負けず冬季スポーツの楽しさを味わいさせてやりたいと、新飯田小学校(林 祐三校長・児童二百七人)では、七年前から学校行事に四年生以上を対象にした「スキー教室」を取り入れていました。今年(二月二十六日)に、バス三台で長岡市の市営スキー場へ出かけました。朝から冷え込みも厳しく、とき折り吹雪といった天候でしたが、子供たちは広いゲレンデに歓喜の声を上げていました。

諸橋教頭は「この行事は学校で計画を練り、PTA、地区のスキークラブの支援をいただいで今日までできています。新飯田の子供たちを育てるといふ大きな目標に向い、教育現場と地域住民が、お互いの信頼関係を築く中で、一体となって取り組んでいる行事といえます」と話してくれました。

スキー技術の指導は、その日のキルティングを着たクラブ員が責任を持ってあたります。最初のうちは腰を引いて滑っていた子供たちも、回数を重ねることにすつかりうまくなりました。

隣りで授業を受けていた、長岡市内の子供たちに比べれば技術的にはまだ劣りますが、何事もこわがらずに向って得た自信は、新飯田の子供たちにとって、大きな財産となるはずだ。

学校めぐり



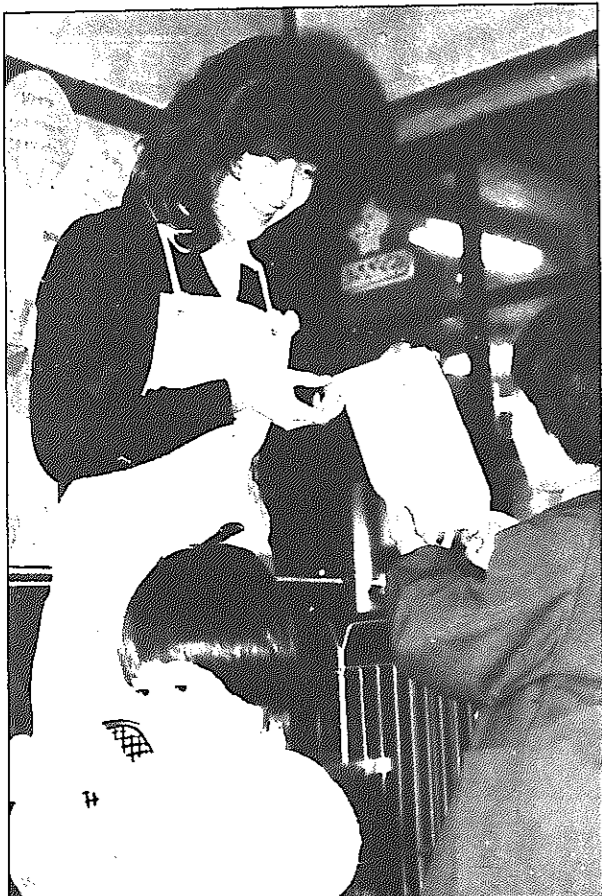
無我夢中でがんばった保母さん1年生

堀水 真知子さん (保母・赤沢)

「一日も早く保育園に慣れようと、毎日が無我夢中の一年間でした。初めはやっていけないかと不安でいっぱい。でも、今は保母になって本当に良かったと思っています。やりがいのある仕事ですね。昨年四月、短期大学を卒業して、鷺の木保育園に勤務した堀水さん。成沢所長以下四人の保母とともに、六十三人の園児を保育しています。「園児にはいやな顔一つせず、良く世話をしていますね。ほっぺについたごはんつぶは取って口にしてのるを良く見かけます。一生懸命ですね」と成沢所長。もちろん、子供たちの人気の的。

「私、堀水先生だーい好き」の歓声に目元もほころびます。「子供たちの成長の過程を見るのは楽しいですね。それに先輩の技術を目の当たりにするたびに、ファイトがわいてくるんです」職場を離れば、勤労青年学級で指人形劇に取り組んでいるはつらつレディーです。

「はつらつレディー」は、働く女性を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問いまっせん。市内のはつらつレディーをご紹介します。



母と子の会話



しつけは心の交流を背景に

しつけのねらいは、身の回りのことや対人関係の作法など、日常生活に必要な行動の型を身につけさせることにあります。このため、しつけは、エチケットなどの形式的な面と、子供自身の欲求や感情にかかわる内面的な動機付けの両面を持ちます。形式的な面は、基本的な生活のしかたの問題ですから、その意味では、いや応なしにある型にはめこまなければなりません。ただその場合でも、「歯をみがきなさい」と一方的に言うより、親も一緒にみがくなどの配

慮が必要です。

一方、内面的な動機付けの面では、子供に自ら進んで「してみたい」という気持ちを起こさせることが大事です。子供の自発的態度は、母親の心情を読んで、自らも母親と同じことをしようとするところにわき上がってくる人が多いようです。その意味では、しつけの内面的動機付けにとって大切なのは、子供の母親に対する信頼、敬愛の情であるといえるでしょう。親と子の心の交流を伴ったしつけを実践したいものです。